国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈著書紹介〉 影山太郎 編『レキシコンフォーラム No. 6』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 影山, 太郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000745

〈著書紹介〉

影山太郎 編
『レキシコンフォーラム No. 6』
2013 年 1 月　ひつじ書房　A5 判　xiii＋349 ページ　4,800 円＋税

影山 太郎

本書は，レキシコン（語彙，語形成）に関わる言語学の諸領域（音韻論，形態論，意味論，統語論，語用論，社会言語学，心理言語学など）だけでなく，辞書編纂，自然言語処理，心理学，脳科学，日本語教育，外国語教育といった関連領域も包括する日本で唯一のレキシコン専門誌で，2005 年に創刊され，本書が第 6 号になる。

どの号も，編集委員会の審査を経て掲載される一般投稿の研究論文（Notes & Discussion を含む）だけでなく，時流にあったテーマを取り上げた「特集論文」と，非専門家向けの「チュートリアル」を掲載している。今号も，次のような多彩な内容になっていて，中にはフランスからの投稿論文も含まれる。

◎特集「日本語レキシコン入門 PART I」
レキシコンの基礎知識（影山太郎），語種と語形成（影山太郎・斎藤倫明），複合語と派生語（竝木崇康），動詞＋動詞型の複合動詞（由本陽子），日本語の造語力としての和製漢語（朱　京偉），漢語 VN の語構成と意味・用法（小林英樹），標準語と方言における形容詞の多様性（八亀裕美），イディオム：レキシコンと統語の接点（岸本秀樹）
◎論文
生成語彙理論による助数詞の分析（眞野美穂・米澤　優），測量名詞の意味・統語的特徴に関する考察（ラウル・ブラン），日本語二重目的語動詞の所有者制約と受身化（岸本秀樹），中国人日本語学習者による外来語処理への英語レキシコンの影響（大和祐子・玉岡賀津雄）
◎ Notes & Discussion
英語形容詞の名詞前位修飾における形式と意味のミスマッチ（菅原　剛），語彙的な複合動詞と補助動詞（影山太郎）
◎チュートリアル
分散形態論（西山國雄），メンタルレキシコンと語彙処理（玉岡賀津雄）

この中で，国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」（リーダー：影山太郎）と直接的に関係するのは，Notes & Discussion に含められた「語彙的な複合動詞と補助動詞」（影山太郎）と「特集　日本語レキシコン入門 PART I」である。

「語彙的な複合動詞と補助動詞」は，従来広く認められてきた統語的複合動詞と語彙的複合動詞の区別（影山太郎『文法と語形成』ひつじ書房，1993 年）のうち，語彙的複合動詞に関する分類を再編成し，「踏みつぶす」や「歩き疲れる」のように後項動詞が複合動詞全体の基本的な項関係（格関係）を支配するグループ（主題関係複合動詞）と，「雨が降りしきる」（＝しきりに降る）」や「花が咲き競う」（＝花が競うように咲く）のように文中の項関係（格関係）は前項動詞が支配し，後項動詞はそれに対して何らかの語彙的アスペクトを付け加える働きをするグループ（アスペクト複合動詞）に大別している。アスペクト複合動詞の後項動詞は国語学で「補助動詞的」と呼ばれることがあるが，本論文では補助動詞的と呼ばれる後項動詞の特異性が意味・機能だけでなく形態構造にも及ぶことを示した点が新しい。この提案の更なる意味合いは，共同研究プロジェクトメンバー等の論考 13 篇を含む論文集（影山太郎編『複合動詞の謎に迫る』ひつじ書房，印刷中）で明らかになる。

もうひとつの「特集　日本語レキシコン入門」は，初心者を日本語レキシコン及び語形成の世界に誘うことを意図した企画で，執筆者はすべて，上記の共同研究プロジェクトのメンバーである。日本語の語彙全般に関する入門書としては，沖森卓也ほか『図解　日本の語彙』（三省堂，2011 年）がコンパクトな記述でお勧めであるが，それは国語学・日本語学の観点から事実の提示に主眼を置いて書かれている。他方，本書の「日本語レキシコン入門」は，基礎的事実を示すだけに留まらず，それを言語学的に分析する際の考え方に重点を置いている点が特徴である。取り上げているのは　語種，品詞，複合，派生，漢語，状態性，イディオムといったレキシコン研究の基礎概念であり，理論的な研究を志す学生だけでなく，国語学・日本語学，あるいは言語処理，情報学，心理学，日本語教育などの専門家で「レキシコンの言語学的研究の平易な手引きがほしい」という需要に応え，「です・ます」調の親しみやすい解説になっている。

影山 太郎（かげやま・たろう）

国立国語研究所長。Ph.D.（言語学）（南カリフォルニア大学）。関西学院大学名誉教授。2009 年 10 月より現職。

主な著書・論文：『文法と語形成』（ひつじ書房，1993），『動詞意味論』（くろしお出版，1996），『ケジメのない日本語』（岩波書店，2002），『名詞の意味と構文』（編著，大修館書店，2011），*Voice and grammatical relations*（共編，John Benjamins, 2006）.

受賞：市河賞（財団法人語学教育研究所，1980），第 22 回金田一京助博士記念賞（金田一京助博士記念会，1994）.

社会活動：日本言語学会顧問（前会長）・評議員，日本語学会評議員，日本英語学会評議員，財団法人日本国際教育支援協会理事，特定非営利活動法人言語資源協会理事.